



路面標示材協会
会長 茂森 慎吾

当協会は、昭和40年代のわが国経済が高度成長し、自動車の普及と道路整備の進展に伴って道路交通事故が増加し、大きな社会問題となった時代の昭和46年6月に「路面標示材懇話会」をその前身として設立しました。

また、わが国では、モビリティ社会へと移行する中で道路交通事故がますます増加し、まさに戦後の交通戦争とまで言われ、道路の交通安全施設（標識・標示）の重要性が社会的ニーズとなり、国策として昭和46年以降5年毎に新たな「交通安全施設等整備五ヵ年計画」が策定され、今日に続いております。

その間、私どもは、路面標示の重要性を認識すると共に、路面標示用塗料に関する規格の統一化と品質の向上を目指して、昭和48年6月には「路面標示材協会」と改組し、今日に至っております。当協会の活動も本年で40周年を迎え、一時は16,765人を数えた交通事故死者数が、平成23年度統計では4,621人と大きく減少した点については、当協会の活動も一定の成果を上げているものと自負しております。

しかしながら、まだまだ2時間弱に1名の尊い命が犠牲になっていることや、交通事故死者数に占める65歳以上の高齢者割合の増加、多くの交通事故死者が発生する、痛ましい事故が毎年の如く発生しております。平成27年度までの「第9次交通安全基本計画」である、交通事故死者数を3,000人以下とし、世界一安全な道路交通を実現する、という計画の達成に向け、当協会と致しましても積極的に取り組んで行きたいと考えております。

当協会は、路面標示用塗料メーカー、及び、それに関する協賛会社で組織され、「人と車の安全・安心」をテーマに「良く見える、良くわかる」路面標示の設置を指向し、増加している高齢者死亡事故の削減、安心歩行エリアや自転車道・スクールゾーンの設置に対応したカラー標示材、雨天夜間時に威力を発揮する高視認性路面標示塗料を軸として、全てのドライバー・歩行者が安心し安全に通行できる標示のワイド化等、時代に即した路面標示塗料の発注者側への積極的な提案の実施。地球規模での環境問題が叫ばれている状況の中、有機溶剤をほとんど使用しない水性形ペイント、有害な鉛系顔料を使用する道路標示黄色の無鉛化等、環境対応型塗料の開発推進と高齢者社会に向けた新たな交通安全、及び、交通ルール遵守に係る啓蒙活動など、総合的な交通安全対策を目指して活動を進めております。

当協会運営の主な活動テーマ

- 1) 路面標示（道路標示及び区画線）設置の充実化を目指し、変革の時代に即した路面標示塗料の品質・技術の向上と需要の開拓。
- 2) 環境対策型路面標示塗料の啓蒙・推進活動。
- 3) 会員相互の技術力向上。